

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

127

2014. 12

- 32期研修生レポート . . . P. 4-5
- 帰国研修生“通心”と短信 . . . P. 8-11
- 事務所引越しました . . . P. 14-15

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和（Peace）と健康（Health）を担う人づくり（Human Development）をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：公益財団法人PHD協会
住所：〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目2-12
山手タワーズ601
TEL：078-414-7750 FAX：078-414-7611
E-mail：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org
郵便振替口座：公益財団法人PHD協会 01110-6-29688



ミャンマー タダインシェ 撮影：T. SAKANISHI

切り株の後ろにそびえ立つ電柱。
ミャンマー、タダインシェ村の新しい景色。

昨年10月28日、村に電気がきた。
今までなかった冷蔵庫やテレビが増え、生活は便利になった。

一方、電柱の前にあった大きな木は邪魔になり切られてしまった。
村のあちこちで同じ風景が。

モーママさん（13年度）は、「電気がきて便利です。でも、木がなくなって暑くなりました。
私も日本から帰国して暑いから病気になりました」と語る。

PHD Movement vol.11

～分かち合い実践録～

事務局長 坂西卓郎

PHD基金始動!

◆これまでの経緯、PHD基金とは?

PHDレター126号「2014年度事業方針・計画」にて方針として記載した「PHD基金」が動き出しつつあるので、改めてこれまでの経緯も含めて詳しく報告させていただきます。

もう10年以上前になるが、当会では雨森孝悦氏（現日本福祉大学教授）に外部評価をお願いした。雨森氏によると当会の研修生は「生業を持つ生活者」であり、時間や資金、能力に限りがある。当会が帰国後の研修生に期待する「日本での研修を活かした地域づくりを」というのは、雨森氏によれば「村人から出発する村人中心の生活改善は（中略）高度な理念、目標である」となる。また「その反面で、村人、つまりふつうの生活者である研修生やその周辺の人たちに、あまり無理をさせられないこともまた現実であり、大きなジレンマとなっている」と課題が指摘されている。

平たくまとめると「時間や資金に限りがある研修生たちを中心とした生活改善は理想的だけど非常に困難」ということになる。ただ「村人、ふつうの生活者」を招へいするというのは岩村先生の想いでもあり、PHD協会の重要な方針であるので変更することはできない。よって上記を前提としつつ、研修生の帰国後の活動をどのように後押しし、共に歩んでいけるか、その方法について近年悩んできた。

◆皆さんの切手が帰国後の後押しに

そこで思いついたのが、岩村先生の呼び掛けで、現在も皆さんにご協力いただいている使用済み切手を活用するというものである。元々、岩村先生は「使用済み切手を集めてBCGをネパールに送ろう!」と呼び掛けられていた。

当会では「研修生の招へい及び研修のために」と皆さんに切手を集めていた。事業報告書によると2012年度は換金額が約27万円、2013年度は約18万円となっている。子どもでも、誰でもができる国際協力として今までに多数の方にご参加いただいていた。その「換金額の一部を帰国後の研修生の活動資金にしよう!」というのがPHD基金の発端である。つまり「使用済み切手を集めて、研修生の帰国後の活動を後押ししよう!」ということになる。

◆研修生との信頼関係を基に

ご存知のように当会には『物』『金』中心の一時的援助を避けるという哲学がある。よって今回のPHD基金についてもいくつかの条件を定めることにした。例えば「研修生個人の発案ではなく、村単位での発案であること」、「費用の一部は自分たちで負担すること」、「自発性、自主性を重視すること」、「一部の利益のためだけでなく、村全体の利益につながること」、「社会的弱者の支援など、より公益性の高いものが優先」などである。

一方、このPHD基金は当会での研修があつてこそ成り立つ新しいスタイルとも言える。というのも通常このような支援を行う際には、モニタリング（途中経過の観察）が必要であるが、当会の場合は一年間の研修期間を通じて、研修生との信頼関係の構築、価値観の共有、必要な能力の向上を行っていることが強みで、情報共有をベースにしつつ進めることが可能だと思われる。

◆適用第一号はミャンマーで

8月にモーママさん（13年度）たちが活動する「シンプルライフ」というグループと交流してきた。ミャンマーという今まさに工業的に発展しよう

としている地域で、あえてシンプルライフを提唱している。具体的には中国産のおかしを避け、伝統的なおやつを作って食べたり、自分たちで安心、安全なシャンプーを作ったりしながら、環境保護、保健衛生の普及などを進める意欲的なグループである。



震災時、真剣な表情です

今回はそのメンバーとPCMと言われる参加型のワークショップを行った。メンバーに問題をあげてもらい、それらにメンバー自身で優先度をつけ、一つの問題を取り上げる。そして、その問題の結果や原因などを、あれやこれやと議論していく。そのプロセスをビルマ語と日本語で記載することにより視覚化ができ、多くの人に関わるといふものである。また問題と原因の因果関係を往復することで、「本当にそれは問題なのか?」ということが吟味できる。

実際にやってみてあがった問題としては、ミャンマーでもっとも大変なのは森林伐採による山崩れだが、身近で自分たちが関与できる問題としてトイレの不足があがった。



PCM、参加型で進めていきます

◆トイレが普及しないのはお金がないから?

トイレがないことで、病気、下痢、

感染、不衛生などの問題が起こる。またトイレ不足の理由としては、お金や知識の不足があり、その原因としては男性の家事への協力がないうえに女性が家事に忙殺され学びの機会が制限される、家族計画の不足に

よる多子による家計の圧迫などが指摘された。一方で、グループとしては既に家族計画普及活動というアクションは行っている。しかしながら、家族計画がうまくいってもその結果が出るのはまだ先の話であることから、短期的なアクションを行う必要があることが話し合いの中で浮かび上がってきた。



モーママさんが家族計画の話をしている様子

一方、トイレが普及しない理由としては「お金がない」があがった。しかし、これは本当の理由ではない。なぜなら「お金がなくても、トイレがある家はあから」である。そこを問いただけると「テンギーさんの家」とシンプルライフでも活動的だった女性の名前があがった。そこから「では、お金がないテンギーさんはどうしてトイレをつくったのか?」という質問には「知識があるから」との答え。そこから話は優先度の問題と「正論は人を動かさない」という流れになった。今、村では電気が来たことにより冷蔵庫の購入が進んでいる。でも、その冷蔵庫の中を見ても水が冷やされているばかりであり有効活用しているとは思えない。一方、トイレがない家でも携帯電話を持っている人は多い。

よって、村の人たちの中でのトイレを導入するという優先度を上げる必要

PCMの結果、
上が課題、
下が原因



優先度を上げることにつながることを期待できる。同時にトイレの必要性などの啓発を行い、トイレの重要性の理解を深めてもらうことに。

そもそもこの図書館はシンプルライフのメンバーが、シャンプーを作って販売したり、村の各戸を廻って図書館の必要性を訴え資金を集め、自分たちでレンガの作り方を勉強し、糞や土を集めて建てた手作りのものである。まさに血と汗の結晶で、前述した主体性という点については高いものがある。また研修生だけでなく、シンプルライフのメンバーなども関わっており、村全体を対象にした活動であること、費用の一部は自分たちで負担する意思があることなどから、要の主体性は十分に担保されていると思われ、PHD基金の適用第一号とさせていただいた。ただ社会的弱者の支援にはなりにくいことなど、もちろん完全なプロジェクトとは行かないが、そこは今後の課題であり目標として、これからも研修生や村の人と対話を重ねていきたい。



モーママさんたちが作った手作りの図書館

◆研修生のアイデア続々と

ミャンマー以外でも、インドネシアとネパールで元研修生たちが色々と試行錯誤を始めたようである。今、アイデア段階で聞いているのは、インドネ

シアのペリスマンさん（08年度）による「出稼ぎに頼らないための養鶏（採卵用）」とその普及、ミャンマーのスウェーウィンさん（02年度）による「有機農業を伝えるための小規模研修センター」などがある。どちらも日本での学びを基にしており、大変興味深いアイデアの種であると思う。期待したい。

また既に「高砂でPHD研修生を迎える会」の神吉さんが、帰国後の研修生のために地域でカンパを募ってくれている。この場を借りて深く感謝したい。この輪を大きくしていくためにも、ぜひ使用済み切手収集活動へのご参加をお願いしたい!

また既に「高砂でPHD研修生を迎える会」の神吉さんが、帰国後の研修生のために地域でカンパを募ってくれている。この場を借りて深く感謝したい。この輪を大きくしていくためにも、ぜひ使用済み切手収集活動へのご参加をお願いしたい!



終了後、PHDポロシャツを着て集合写真

提唱者

温故知新 岩村昇語録

～家族同士の結びつきから広げるPHD運動～

日本に招かれた研修生たちは、日本で技術の研修をするよりも、むしろ日本のわれわれの日常の中に、友人として、兄弟として入りこんでもらう。具体的にはホームステイ（以下HS）をしてもらうのである。日本の普通の家庭に下宿して、家族の一員として、一年間、三六五日を共にすることによって、喜びも悲しみも、欠点も長所もお互いに知り尽くすことができる。

（『共に生きるために』より抜粋）

PHD協会はなぜHSを実施するのか。「人殺しの顔でも、エコノミック・アニマルの顔でもない顔を知ってもらう」と岩村先生。HSを通じた相互理解、今後も大切にしたい。（坂西）



第18期国内研修生レポート (5月～10月)

工藤
成美さん



一年前の今頃は、大学院生室で一人で悶々としていた。修論では科学技術に依存した農業のあり方について批判しつつ、自分のライフスタイルを変えられないという矛盾を抱えていたからだ。今、PHD協会を通じて有機農家さんやアジアの村の研修生たちのご縁を持ち、学ばせていただける感謝と喜びを、この場を借りてお伝えしたい。

食べる人のことまで、考える (7月 篠山市 農業研修)



篠山市の有機農家・円谷さんは、「野菜を作るとき、それを食べる家族や消費者のことを想う。農業を振りかけるなんて考えられない」と話して下さった。農産物の生産に、食べる人の目線が欠けてしまうと、単なる「製品」になってしまう。いかに効率よく生産するかという点だけが重要になれば、農業や化学肥料が使われる。手間隙掛けて育てた野菜を収穫し、調理し、そして食べる人に寄り添うという一連の営みを断絶せず、日常的に行っている有機農家のお母さん方には、本当に頭が下がる思いである。そのときの学びを实践すべく、私はプランターひとつから始めている。小食な同居人が、「栽培した野菜は特別」と残さず食べてくれるのが嬉しい。

当たり前を疑え! (7・8月 ネパール・ミャンマー訪問)



一日中電気がないと「豊かな暮らし」ができない? そんなことはない。ネパールのピンタリ・ガハテなど山の上にある村々では、限られた水力を用いて夜間だけ発電し、村中の明かりを灯していた。ミャンマーでは村の家の庭先にソーラーパネルがあった。全く不便でないといえば嘘になるが、それ以上に日本が失いつつある地域の結びつきや、村のために行動を起こす若者の存在があった。日本が抱える問題の解決策を様々な場面で提示してくれているかのような、2つの国の村の暮らし。真の意味での社会の進歩とは何だろうと考えさせられた。両国から学ぶことはたくさんある。

地域の課題に取り組んだ経験がないようじゃダメだ (9月 丹波市市島町 農業研修)



市島にご夫婦で移り住み25年になる橋本さんに、私の進路について相談した際アドバイスをいただいた。全く知らない土地で一から就農され、地域住民や消費者とのネットワークを構築されてきた橋本さんの言葉は、心に重く響く。国際協力をする側は大抵外部者であり、他人である。そのため自らも当事者として腰を据えて課題に取り組む姿勢を持ち合わせていなければ、本当の意味で地域に受け入れてもらうことはできない。当事者となることが不可能なのであれば、むしろ外部者としての役割をとことん突き詰めていく必要があると感じた。

多くの人との出会いにより、私が抱えていた「矛盾」と向き合うための具体的な行動が、少しずつではあるが見えてきたように思う。あとは、これらの気付きを生かすことができ、さらなる経験を積める新たな場所を探すべく突き進むだけだ。当面はこれまでの学びを整理しながら、自分と向き合う時間を意識して作っていくことが課題である。

それぞれがこれまでに振返ります

吉川
美華さん



国内研修生としてのこれまで

5月

オリエンテーション
JICA-NGO連携による
参加型コミュニティ開発研修に参加
PHD協会理事会
西脇指導者会
神戸学院大学 講義同行
第32期研修生来日報告会

6月

JICA-NGO連携による
参加型コミュニティ開発研修に参加
但馬指導者会
阪神シニアカレッジ 講義同行
関西NGO協議会 インターン研修

7月

淡河小学校交流会
ソディ例会
加東市連合婦人会交流会
ネパール・スタディツアー同行
ネパールの毛糸製品仕入

8月

ミャンマー選考・フォローアップ出張同行

9月

スタディツアーと海外出張報告会

10月

上垣敏明さん宅(養父市)でのムクさんの研修に参加
JICA関西 ネパール毛糸製品・タイ手織り布製品の販売
PHD協会事務所引越



こんな活動もしています

- 定例ミーティングに参加
- 職員研修に参加
- 研修先へ同行
- 研修ふりかえり
- 会費・募金チラシの企画
- PHD LETTERの企画
- ホームページ、ブログ更新
- 切手・はがき集計、整理
- お礼状一言書き
- スタディツアー報告書作成

5月から国内研修生としてPHD協会に通うようになりましたが、あっという間に折り返し地点に来てしまいました。これまでのことを振り返るにあたり、私の心にいちばん積もった思いは「支えられている」という感謝の気持ちです。会費や寄付をくださる方々、交流会や研修先で受け入れてくださる皆様、指導者の方々のどこまでも熱い思い、職員方の「待つ」という姿勢、そして、たくましい研修生たち。

誰かを、何かを支えるというのは意識してできるものではなく、何気ない日常の中で隣人のために、ほんの少し自分の時間を使うこと、ほんの少し相手の思いに耳を傾けること、今まで自分のためだけだったものを、ほんの少し他の人のために使うことから始まると思います。それがPHD協会の中には、PHD協会と繋がる方たちの中には豊かに存在しているのです。

この短い間に、どれだけの方と知り合い、言葉を交わすことができただしょう。私たちの間に存在するのは、PHD協会という団体だけなのに。一期一会。そこから、私たちが他者との関係において、共に生きるために違いを受け入れ、受け留め、少し変化することで関係性は作り上げられていきます。つながりができます。心が豊かになります。その学びはあらゆるところから得られることがわかりました。普段の生活の中にある自分の「気づき」にも意識を向けることができるようになりました。

ネパールへのツアーは、「百聞は一見にしかず」に尽きます。力強く、たくましく、しなやかに生きる人々の厳しい生活と、山々に囲まれた美しい村の景色が、私の中でコントラストを描き魅了してやまず、村のため、みんなのために思い日本で研修を続けるムクさんへ自然と繋がっていきます。私たちが、どこかに残してきた「心の豊かさ」を持ち続け、「自分が頑張ることで周りを動かす」という強い意志で、人々が共に生きることを日々の生活の中で大切にしています。

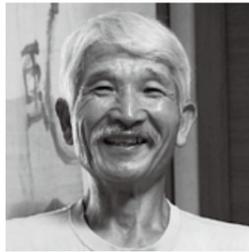
民政移管も加勢して経済発展が著しいミャンマー。今のミャンマーを見られるのは、今しかないとの思いから参加しました。村では元研修生たちの連携もあり、それぞれが未来へ向ける視線は熱く、希望に溢れているように見えました。一方で、一等地の買い占めやインフラの整備が急速に進められており、その影響は村であつても計り知れません。どことなく日本の原風景を思い出させるような懐かしさと、穏やかな国民性、仏教を軸にした安定した精神性を共に大切に守っていきたくて思いました。

国内研修生としての後半は、共通研修が中心となり、いよいよPHD運動に関わる全ての人をも巻き込んでの総仕上げに入っていきます。それぞれの学びを分かち合い、少しでもお互いに寄り添い、高めることができればと思っています。

ネパール

帰国研修生 “通心” と 短信

今回は趣向を凝らして会話形式で短信をお届けします。研修生の村を訪問すれば気付くのですが、帰国した研修生たちは日本の生活や研修での出来事をよく覚えています。また、指導者の方々やホストファミリーの方々も、お世話になった研修生たちのことをよく話題にされます。このように、一年の研修を終えても心のつながりが途絶えることがないのが、PHD協会の魅力の一つだと感じています。今回は国内研修生工藤がこのコーナーを担当させていただくに当たり、遠く離れた地にいる双方の想いをそれぞれに届けるべく、日本で撮ったビデオレターを現地の研修生たちに配達してきました。



上垣敏明さん (写真上)
久美さん (写真下)
(兵庫県養父市
／農業・養鶏・養蜂指導者)



パッサン。フェイスブックで「お父さん元気ですか？」って何回も聞いてくれてありがとう。元気です。

パッサンが帰る時、お父さんに言ってくれたことを覚えていますよ。お別れの時言ってくれたのは、「お父さん、心きれいですね」って言ってくれたんです。お父さん、ジーンとききましたよ。あなただけです、そういうこと言ってくれるのは(笑)。

パッサン、元気で村で活躍してください。

パッサンが作ってくれたクルタ(ネパールのスポン)、お母さん着てますよ。作業しやすくてパッチリでした。

ナマステ。私は元気です。日本のみなさんも元気だと思っています。

私は今、ここで農業をしながら学校の先生をしています。これからも農業を続けながら、学校の仕事を頑張っていきたいと思っています。私はみなさまのおかげでたくさん勉強できました。勉強したことを少しずつ、村でやりたいです。

上垣さん、皆さん。とっても、心からありがとうございます！



パッサンさん (11年度)



円谷豊子さん・利行さん
(兵庫県篠山市／農業指導者)

おはようございます。こちらは雨が上がってとても静かな朝です。お元気ですか。こちらは元気にしています。(愛犬の)マルもとても元気にしています。そちらではどうですか。

今、何を一番頑張っていますか。楽しみにしていることはどんなことですか。教えてください。

こちらは相変わらず、野菜とお米を作っています。一人でも多くの人に喜んでもらおうと毎日過ごしています。お父さんは今から仕事に行くのでこんな格好をしています。みなさん元気で、目標に向かってしっかり進んでください。バイバイ

こんにちは。お元気ですか。日本にいるときはお世話になりました。感謝しています。

私は今、ネパールで農業のことじゃなく、日本語の教師のために頑張っています。その仕事を終えたら、村に帰って農業をやりたいという気持ちを持っています！

ネパールにぜひお越しくださいませ！私たちはお待ちしています！



アチャンマさん (12年度)

みなさんこんにちは。円谷お父さんお母さん、お元気ですか。私はとても元気です。

私は今、オノミ(助産師)の勉強を頑張っています。私が日本にいたとき、大変色々お世話になりました。本当にありがとうございました。ネパールでまたいつか会いたいです。

これからも私たちをよろしくお願いします。



ランマヤさん (12年度)



ウルミラさん (10年度)

クンタにあるクリニックに泊まり込み、助産師の仕事が続いている。今年は113人取り上げた。家族計画の啓発もしている。また、ウルミラさんの出身村であるシュディガオンで若者のグループを作った。メンバーは約30人。月20ルピーずつ集めて、3万ルピーになった。野菜の種や肥料の購入、病気の時など、必要とするメンバーに提供する。

養鶏が続いている。今は病気も少なく順調のようで、当会が訪問する1週間前に鶏を売った。子ども(写真右)は1歳に。



ラメシュさん (11年度)



プレムさん (13年度)

今年3月にピンタリ村に戻ったプレムさん。早速、村人や協力団体SAGUNと共に活動計画を作成した。7月の段階では畑の一部をデモファームとして日本で学んだ有機農法を試み、それを村人に公開するための畑を設けた。そこでトウガラシやタマネギやブロッコリーなど、野菜の有機栽培に挑戦している。また村人にポカシ肥料を教える準備にも取り掛かっている。

日本にいた頃に比べて急に老けた様に見えるのは多忙のため？



帰国研修生 “通心” と 短信

ネパールに引き続き、ミャンマーにもビデオレターを届けてきました。モーママさんはホストファミリーだった矢萩さんからのビデオレターを何度も繰り返し見て、涙を浮かべていました。そしてビデオカメラを向けると想いが溢れ出し、返事のビデオレターは研修生の中で一番長いものとなりました。



矢萩雅一郎さん
(ホストファミリー)

ミンガラバー！ モーママ、ネーカウンラー？

元気になっていますか。お父さんは、元気です。そちらタダインシェで、しっかり頑張ってくださいね。また日本で会えることを楽しみにしていますよ。ではさようなら。タッター。

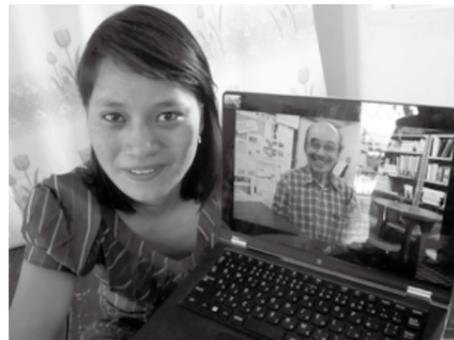
お父さん、ミンガラバー。私、お父さんをとっても思い出す。お母さんも思い出す。いつもお父さんとお母さんのこと考えて、涙もあるね。

お父さんとお母さんは私に厳しいけど、私のために怒ります。私は日本であまりわからなくて、今、ミャンマーでよくわかります。例えば、雨降るときに傘持っていない。傘を持たないと、雨がたくさんになって（濡れてしまうので）、熱とか元気じゃないになるね。そのとき私はお父さんをとっても思い出す。



モーママさん (13 年度)

私は今ね、学校の先生になりました。そのとき、お父さんを思い出す。お父さんは先生です。そして、お父さんの娘の私も、先生になりました。私は今、学校に初めてくる子どもたち、6歳の1年生を私は教えます。難しいなあ…。子どもたちは、あまりわからない。わたしのクラスルームで、子どもたちは30人いますね。私は声を大きくして、子どもたちに頑張って上手に教えます。ときどき難しいです。でも、楽しい。私、子どもたちが好き。子どもたちはかわいい。



ビデオの中の矢萩お父さんと

そして今、私は村の人たちの前で、健康について言いますね。糖尿病や高血圧についてはよく言います。今、村の人たちは塩とか砂糖とか油とかたくさん使いますね。だから私は、ゆっくりやめましょうと頑張っています。



村の女性たちに健康について話す

また、私は図書館についても頑張らなければならない。色々頑張ります。私は村のために頑張りたいことがいっぱい。お父さんお母さんをいつも思い出す…。いつも忘れません。



YMCA の幼稚園の先生を継続。その他にも YMCA のプログラムである家族計画や簡易飲料水普及活動にも取り組んでいる。



農業に専念。愛媛の泉さん宅で勉強した天恵緑汁を実践中。天恵緑汁を仕込んだ日の記載や、農業の収支をきちんと管理。収穫がよかったので、それを見て驚いた一人の村人が話を聞きに来たそう。3年実践してようやく一人。でも大きな一歩。



引き続き農業とお寺への寄進を熱心に行っている。笛吹きの仕事も入ってきているようで今度有名？な人と共演するそう。



2009年に NGO「ヤンキン」を設立。AIDS 予防の活動を経て、現在は少数民族であるシャンの子どもたちの権利を享受するための活動に取組中。



今年出家して尼さんになったため、短髪に。サントウンさん (14 年度) と同じタダインシェ村の学校で、ボランティアの先生をしている。「私も手紙を書きます。みなさんお元気ですか」と、日本のみなさんともっと連絡を取りたい様子。



現在タダインシェ村に新しい家を建築中。比較研修で訪れたフィリピンで勉強した事を実践し、今は南北ではなく東西にお米を植える。太陽の流れと一緒に植えるのがいいとか。



薬科大学の事務員として働きながらスウェウィンさんたちと一緒にマイクロクレジットの活動をしている。



マンゴーの生産者と企業との仲介人として、農民の利益を守るために価格交渉をする仕事をしている。会社からの信頼も篤いよう。「村の生産者とまちの消費者が直接野菜を売り買いできる仕組みを村に作りたい」と夢を語る。

ネパール

田中温子さん(芦屋市) 協同組合のレクチャー

私は生活協同組合コープこうべの職員として、今回のツアーに参加させていただきました。協同組合を広めていこうとするピンタリ村で、村の人に集まっていた「日本の協同組合の職員」として話をしてきました。

コープこうべの理念である「一人は万人のために。万人は一人のために」と基本軸である「出資・利用・運営」を、教えてもらったネパール文字でスケッチブックに書き、イラストや具体例を用いて説明しました。村ではほとんどの方が農業を営んでいます。使用する農薬を購入する際、店の人から高値で買わされてしまったり、農薬の健康被害や土壌



への悪影響について知らないために、大量に農薬を使ってしまう等の問題を抱えています。

歯磨きが大切だと知っている人が他の人にも教える、にんにく作りが上手な人が苦手な人に教える、洋裁が得意な人は他の人にも教える等、みんなの暮らしに必要なもの、必要な知識を協働の力で手に入れることができるかもしれません。村にはすでに、農業協同組合や女性グループが存在していますが、よりよい発展のために、今回の話をほんの少しでも印象に残してもらえればと思います。

素敵な元研修生たちとの出会い

パッサンさんは毎朝4時に起きて、ヤギの餌となる草を採りにいき、山の水場まで重い水瓶を持って足場の悪い道を3回以上往復し、家族の食事を用意した後、片道20分かかる山の上の小学校へ出勤しています。時間の合間を縫って自分の畑の手入れをし、日本で習った農法をなんとか取り入れようとしています。課題もたくさんあります。そんな超多忙の中、私たちのお世話をしてくれました。

ネパール：7月26日～8月5日

研修生の村を訪問！

ミャンマー：8月20日～29日

ミャンマー

濱宏子さん(ヤンゴン)

ミャンマー連邦共和国人口6300万、面積日本の1.8倍、130以上の民族を有するこの国との深い縁を、不思議に思わずにはいられない。インドネシアで10年暮らした事がきっかけでPHD協会と繋がった縁。そしてインドネシアへの比較研修旅行に参加後、ミャンマー行きにも参加を決めてほどなく、驚くことに我が家はミャンマーに転勤が決まったのだ。ミャンマーは私の中で大きな意味を持つ国となり、私はまだ見ぬミャンマーに日々思いを馳せた。

私は頑張る若者が好きだ。遠く故郷を離れて、研修生として頑張るアジアの若者は尚更好きだ、無性に。そばに居て応援したくなる。農業や保健の知識では何の役にも立てないけれど、今回マンダレーにモーママさんを訪ねてその笑顔を見ること、サントウンウーさん

の実家を訪ねてご両親と話すのも楽しみであり目的の一つだった。

先に転勤先であるヤンゴン入りしていた私は、時間を合わせて、日本組とマンダレー空港で合流した。大都会ヤンゴンに比べ、マンダレーの空は澄んで青かった。初めて訪ねる町なのにもう故郷のような気がして気持ちが弾んだ。市内から30分も走ると、手付かずの自然に出逢える。タダインシェ村はそんな自然の中にありながら、力強く変化して行く力も孕(はら)み、また古き良きものを守って行こうとする力も同時に持っていることが感じられる村だった。元研修生と会い、彼らの家々を訪ね、心尽しの食事をいただく。

村の図書館を見せてもらい、その質素な土の壁に触れ、若いシンプルライフの皆の努力はいかばかりだったかと感心した。この土壁の図書館を立ち上げた一歩はただの一歩ではない。本を読む喜び、知識を得る喜び、新

PHD協会とコープこうべ

このツアーに参加して一番嬉しかったことは、自分の所属しているコープこうべが、こんなに素晴らしいNGOと協力関係にあったのだと実感できたことです。研修生が日本に行くと、日本社会の便利さを知り「日本はすごいなあ。自分の村にはあれがない。これがなくてダメだ」と思わせる研修ではないということ。日本の良い部分も悪い部分も見て学び、自分たちの村が持っている良さに気付くことをサポートされています。支援者側はどうしても、気をつけていても、どこかで上から目線になってしまう部分があるかもしれません。PHD協会は国際協力組織ではあっても、あくまで交流を大切にしているということ。お互いに、あるもの探しのお手伝いをし、友情を築く。友だちが世界中にいるということは、結果的に平和につながる。岩村先生の思いを大切に受け継ぎ、活動をされているPHD協会とつながりを持っていることを誇りに思い、他のコープこうべ職員にも、そのことを知ってほしいと思った旅でした。



たなコミュニティを築く喜び、それは村にとって大きな大きな一歩である。課題はまだ多いが、若い力を惜しみなく使い、村の方たちがこの図書館を誇りとし、この活動が近隣の村々にも拡がり、やがて大きな輪となり、この場所が村にとってかけがえのない場所となるよう、ヤンゴンから見守り応援したい。

最後にサントウンの実家から見た日没は、マンダレー滞在中、私の心に残る鮮やかな記憶の一枚となった。そして研修生の皆と交わした言葉ひとつひとつも、大切に心に刻み込まれた。人と人との間に国境などない。肌の色の違いも、言葉の違いも、感謝と笑顔で越えていける。

(ありがとう)

また逢う日まで。チェズティンバーデー。

日々是東奔西走

日本での介護研修

先日、「ネパールの農村の暮らしや女性の置かれている状況を中心に、日本で保健衛生、農業など様々な研修を通じて感じた事を話してほしい」との講演依頼があり、ムクさんと井上で行くことになりました。どんな話をしようかと2人で相談していた時の一コマをご紹介します。

井上：デイサービスでは何をしましたか？

ムク：ひとり暮らしのお年寄りがデイサービスを受けに来ます。そこで、体操の仕方や入浴介助について勉強しました。日本では核家族が多くて、みんな仕事で忙しいです。

井上：ピンタリ村のお年寄りは、どんな生活をしていますか？

ムク：ピンタリ村は大家族です。だから、お年寄りは自宅で過ごし、最期まで自宅でお世話をします。でも今、若い人がたくさん外国へ行きます。だから、村のお年寄りのこれからは心配です。

井上：村に帰って何をしたいですか？

ムク：帰ったら、村を定期的に回って、お年寄りの今の生活の様子を見て回ろうと思います。そして機会があれば、勉強した体操を教えたいです。

ネパールも決して他人事ではないと感じたようです。

若者たちが村の外へ出ていくことによって、村の中でうまく機能していた事や生活にどんな影響を及ぼすのか。

少子高齢化の日本と人材流出が著しくなっているネパール、私たちはどんな道をたどるのでしょうか。

(井上理子)



大家族の中心でジャックフルーツを剥く“母”

人材流出

デイサービスの研修に行ったムクさんはサービスの利便性や必要性を学んだ反面、一人暮らしのお年寄りがいる事に寂しさを感じていました。相互扶助が息づいているピンタリ村ですが、海外への留学や出稼ぎで多くの人材が流出している

PHD 活動紹介 7月～10月末



7月

- 3日 JOCA齊藤さん来訪(坂西・工藤)
- 5日 国際協力入門セミナー NGO相談員(井上)
- 14日 淡河小学校交流会(今里・吉川・メラティ・サントウン)
- 16日 関西NGO協議会 理事会(坂西)
- 18日 32期研修生中間振り返り(坂西・今里・研修生3名)
- 19日 関西学院高等部来訪 インタビュー(今里・吉川・メラティ・サントウン)
- 20日 加東市連合婦人会 交流会(今里・芳田・吉川・研修生3名)
- 21日 米山記念奨学会 歓迎会(井上・研修生3名)
- 22日 JANIC マネジメント研修(坂西)
- 24日 開発教育セミナー NGO相談員(井上)
- 26日 ソディ例会(芳田)
- ネパール・スタディツアー ～8月5日(坂西・今里・工藤・吉川)

8月

- 2日 WFWP 国際協カシンポジウム(井上)
- 4-5日 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー(坂西) 相談員として(井上)、バザー(芳田)
- 20-29日 ミャンマー出張(坂西・井上・工藤・吉川)
- 31日 サマンタ(反差別草の根交流の会) 総会(井上・ムク)

9月

- 2日 JICA関西 PDC研修運営委員会(坂西)
- 8-17日 インドネシア出張(坂西)～19日(芳田)
- 17日 コープ但馬 レインボースクール(今里・工藤・サントウン)
- 20日 ネパールスタディツアー・ミャンマー出張報告会(工藤)
- 24日 神戸NGO協議会(坂西)

- 26日 関西NGO協議会 理事会(坂西)
- 27日 JANIC山口事務局長来訪

10月

- 1-5日 フィリピン出張(坂西・今里)
- 2日 多文化フェスティバル打合せ(坂西)
- 4-5日 グローバルフェスティバル(井上)
- 7日 加古川ロータリークラブ 卓話(芳田・メラティ)
- 明石北ロータリークラブ 卓話(井上・サントウン)
- 8日 篠山ロータリークラブ 卓話(井上・ムク)
- 10日 大阪経済大学「国際協力とボランティア」ミニフォーラム(井上)
- コープ神吉 レインボースクール(工藤・メラティ・サントウン)
- ワンワールドフェスティバル for Youth 実行委員会(坂西・工藤)
- 11日 橋本農園 土砂災害復旧ボランティア
- 15日 明石ロータリークラブ交流会(坂西)
- 加古川平成ロータリークラブ 卓話(井上・メラティ)
- 17日 コープ塩屋 レインボースクール(工藤・吉川・メラティ)
- 地球市民フォーラム奈良 NGO相談員(坂西)
- 18日 JICA関西 青年海外協力隊募集説明会 NGO相談員(坂西)
- JICA関西「シルクロードは今」 NGO相談員(芳田)、バザー(吉川)
- 21日 全日本自動車産業労働組合総連合会 福祉カンパ贈呈式(坂西)
- 23日 PHD協会事務所引越
- 25日 農業指導者上垣敏明さん・久美さん来訪
- 26日 短期研修生クンジュマヤさん来神、研修 ～11月1日
- 28日 西小倉中学校 NGO相談員(坂西)
- 31日 大阪経済大学 インターン3名受入①



事務所の外観。目印はピンクのビル。車道からはちょっと奥まっているのでご注意ください。玄関脇には赤いPHD号車が止まっている時もあります。



事務所スペースにあるソファも見違えるように評判。トラベル・ファイブ・ジャパンさんからいただいたゴムの木がいい感じです。来訪時にはぜひこのスペースでゆっくりといただければと思います。



資料庫も備えました。また緊急時にはこの奥で研修生たちが泊まることもできます。



お風呂もあります。しかも2つも。研修生の来日時にはここで日本式に慣れてからホームステイを開始する予定です。



こちらはミーティング兼ボランティアルームです。今までと違い独立した環境で落ち着いて作業や会議が可能となりました。ボランティアの皆さんにもゆっくりといただければと思います。



イスラム教徒の研修生もお風呂で手足を洗いお祈りができるようになりました。徒歩5分のところには日本最古のモスクもあり、研修生も安心です。

PHD協会事務所



事務所は6階です。ベランダには「PHD協会」と表記しています。玄関で「601、呼出」を押してください。



窓から神戸の山々が見えます。前の事務所からは空が見えなかったので、とても贅沢です。秋には紅葉が楽しめるとのこと。



玄関の様子です。今までとは違い土足ではなくスリッパです。これだけでもちょっと新鮮！

引越しました！！

PHD協会は27年間、元町商店街に面する建物に事務所を構えていましたが、10月末に移転しました！

長年慣れ親しみ、皆さんにも集っていただいた思い出の事務所を移転するのは苦渋の決断でした。引越の主な理由は、研修生が緊急時に宿泊できる場所を確保するためでしたが、新事務所にはキッチンがあり、事務所スペースとは別にボランティアの方々のスペースもできました。今までよりも居心地の良い事務所にしたと思っています。

またキッチンではPHDらしく、農業指導者からいただく有機野菜を調理したり、研修生たちの郷土料理を食べたいと思っています。11月1日に行ったお披露目会では、早速ムクさんとネパールからの短期研修生クンジュマヤさんにネパール料理を作ってもらい、その日に集ってくださった約30名の皆さんと一緒にいただきました。

ぜひ皆さん、新PHD事務所にもお越しください。職員一同お待ちしております！！



事務所スペースです。太陽がまぶしくてパソコンの画面が見えにくいという贅沢な悩みが生まれるほど明るくなりました！より生産的な業務を行ってまいります！



クンジュマヤさん

11月1日には新事務所お披露目会を行い、ネパールからの短期研修生クンジュマヤさんの報告会も実施しました。職員合わせて約40名となりました！素晴らしい一歩を踏み出すことができ、感謝です。



新事務所の目玉の一つ。台所です。農業指導者からいただく野菜を皆で調理することもできます。これで某お弁当チェーンからも卒業(?)です。



住所：神戸市中央区山本通4丁目2-12 山手タワーズ 601
電話：078-414-7750 FAX：078-414-7611
*電話・FAX番号も変わりました。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

6月	49件	¥586,057
7月	63件	¥664,051
8月	181件	¥1,582,530
9月	46件	¥715,609
339件		¥3,548,247

上記の通り多くの皆様より貴重なご浄財を賜りました。皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

◆西日本研修旅行を実施します

1月中旬に約2週間、研修生が西日本各地を訪ねます。各地で学ばせていただくとともに、交流の会をもちます。

お近くの方には交流会のご案内をお送りしますので、ぜひお越し下さい。

宮崎～鹿児島～熊本～福岡～山口～広島～岡山

◆今年も連合、自動車総連の皆様よりご寄附をいただきました

今年度も日本労働組合総連合会「連合・愛のカンパ」と全日本自動車産業労働組合総連合会「福祉カンパ特別寄贈」をいただきました。

連合では「働くことを軸とする安心社会」の確立を掲げておられ、その一環としてNPO等をご支援いただいています。また10月21日には東京にある自動車総連本部事務所にて「福祉カンパ特別寄贈」贈呈式があり、坂西が出席させていただきました。

組合員の皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございます。

◆2015年度国内研修生2名募集

海外からの研修生と共に学ぶ1年。多くの方との出会いが待っています！

*詳しい案内をお送りします。ご連絡下さい。

〇月×日のPHD協会

「新事務所引越し」

国内研修生 吉川 新事務所には今里が滞在中。出勤というより今里邸に日参するような不思議な感覚。ドアを開けると「おはよう」と暖かい言葉でお出迎え。

国内研修生 工藤 引越日はお休みでまだ道が不慣れ。週明けムクさんと買い物に行くも帰り道が分からず彷徨い「こっちはありません」と叱られる。

職員 今里 引越は研修生の宿泊場所のため。が、初日から滞在中のは足を負傷した今里。本人は反省することしきり。いやいや守衛として活躍中です。

職員 井上 引越日の前日も外での会議でバタバタ。事務所に戻ると既に箱詰めされた段ボールが山積み。ボランティアさんたちのご協力に深く感謝。

職員 坂西 引越前日に自転車で転倒し顔に大きなガーゼを貼る。松葉杖の今里と新事務所ご近所挨拶周りに行き訝しがられる。「どういう団体？」と。

職員 芳田 引越日の担当は旧事務所の搬出と最後の掃除。全ての荷物が運び出された旧事務所はガランとして寂しげ。長年お世話になりました。感謝。

臨時職員 安本 自宅に保管していた一人暮らし時代の冷蔵庫と洗濯機を寄贈。その心はもう一人暮らしはしたくない。「ついでに私ももらって欲しいのですが…」。※今里負傷のため臨時職員として勤務

以上、PHD歴（全ての経験含む）が短い順

第33期研修生のホストファミリー募集！



シャハルル (ソン) さん
(インドネシア・36歳・男性)



カンチ・マヤ・タマンさん
(ネパール・26歳・女性)

期間：2015年4月中旬～2016年3月中旬の約1年間。来日後の日本語研修中（6週間）は毎日、現場研修開始以降は、月平均1週間～10日程度。12月～3月は、研修内容により月20日程度となります。

経費：当会規定の食費、滞在費をお支払いいたします。その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。

応募条件：当会事務所から公共交通機関で1時間以内で通える範囲のご家庭。

*もう一名、ミャンマーから研修生が来日予定です。



この夏、約10年ぶりにインドネシアの研修生の村へ。元研修生たちや近所の人たちとお茶を飲んでると豊かさの話に。「私たちはお金あまりないけど、時間はあるからみんな集まって冗談たくさん、楽しいね」とアフリタさん。「日本で働くは大変ね、1年に1週間ぐらい、私の家に来てゆっくりして下さい」とアルウィさん。彼女・彼らは

いつも惜しみなく温かさや優しさをくれる。これまで、自分に何かできることがあればとの思いでPHD協会に関わってきたが、果たして何ができただろうか。私の方がたくさんもらってばかりだ。

余談だが、帰国の際に空港で涙した私を見て、マスラルさんが「♪泣きなさ～い、笑いなさ～い」と「花」を唄い出した。泣きながら爆笑。これもまた、この人たちとずっと繋がっていたと感じた瞬間だった。いつかまた、会いに行きます。(ヤスモト)

書き損じはがき 収集キャンペーン実施中！

書き損じた年賀ハガキ、未使用のハガキはありませんか？

2013年度は皆様から年間29万円相当の書き損じハガキや未使用ハガキをいただきました。ありがとうございます。

書き損じはがき等を当会まで、是非お送りください。皆様のご協力をお願いいたします。

編集協力：桃骨

今号から16ページとなった会報。引越しの時期と重なり出稿が大幅に遅れて冷や汗をかきました。皆さまからのご感想をお待ちしています。(編集:よ)